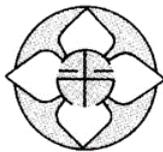


## 大阪市立 平野南 小学校



**住所** 〒547-0031 大阪市平野区平野南 2-3-8

**連絡先** ☎ 06-6709-5500 ☎ 06-6799-0620

**校長** 東川 達宏 **開校** 昭和 35 年

**URL** <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751727>

**教育目標(校訓)**

強く 正しく 明るく

**教育方針**

「子ども一人ひとりが輝く笑顔あふれる学校」

**重点目標**

児童の「わかった・できた・役に立った」を大切に  
して、学習活動を積み上げることで、校訓の「強く・  
正しく・明るく」を備えた児童の育成を図る。

**大切にしたいこと**

～心豊かななかかわりで  
励ましの声かけ～

**運営に関する計画****【概要】**

- ・国語科の研究に努め、「わかる」授業の実践に力を入れています。
- ・各種の体験・経験活動等を計画的に実施することで、児童の興味関心を高め学力向上につなげます。
- ・6年生のヒロシマ修学旅行を中心にした平和学習や、国際クラブ「オリニフェ」を中心に多文化理解教育に取り組んでいます。

**【年度目標】****【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の45%以上にする。  
[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教職員の割合を55%以上にする。

**校長先生からのメッセージ**

平野南小学校は、昭和35年(1960年)4月に開校し、今年で65年目を迎えました。子どもの「わかった・できた・役に立った」という思いを大切にしたい教育活動を推進しております。学校の特色をいかした取り組みができるように、学びのスタイルなど、工夫と改善を図り、「笑顔あふれる学校」として、教育活動をすすめてまいりますので、よろしくお願いいたします。

校長 東川 達宏

R5年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	
65	59	平均正答率(%)

●結果の概要／

平均正答率では、国語・算数ともに全国、大阪市の結果を下回っている。国語では、全国とは2.2ポイント、大阪市とは2ポイントの開きが見られる。また、算数では、全国とは3.5ポイント、大阪市とは3ポイントの開きが見られる。しかし、前年度と比べると、平均正答率にかなり近づいている。

平均無解答率を見ると、算数では、全国より0.3ポイント低く大阪市とは同じになっているものの、国語では、全国より1.5ポイント、大阪市より0.2ポイント下回っている。平均無解答率についても、両教科とも2ポイント以上前年度より下回る結果となった。

●取組の成果と課題／

[国語]「読むこと」において、全国、大阪市を上回っている。特に中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる問題の正答率が高かった。これは、国語科において「読むこと」を大切に授業づくりの研究に2年にわたり取り組んできた成果であると考えられる。一方、「書くこと」については、昨年度より差は縮まったものの、他領域に比べ、全国、大阪市との差が大きい。

[算数]どの領域においても全国、大阪市を下回ってしまっている。特に「図形」領域と「データの活用」領域で少し開きが見られる。まず「図形」領域では、図形の意味や基本的な性質についての理解が不十分で、なかでも三角形の面積で底辺と高さの関係が理解できていない。つぎに「データの活用」領域では、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることが苦手である。

R5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計得点 (点)
男子	14.28	20.03	33.61	40.13	45.95	9.54	142.21	22.25	51.44
女子	14.39	20.81	36.32	37.10	32.67	10.09	142.26	11.16	51.15

●結果と概要／

男子では、全国を上回るものは、2項目しかなかったが、大阪市と比べると半数以上は上回ることができた。一方女子については、ほとんどの項目で、全国・大阪を下回る結果となった。そのため体力合計点では、男子が大阪市を上回るのみであった。

質問紙「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、男子の肯定的な意見の割合は、全国や大阪市とほぼ変わらないが、女子については、肯定的な意見があまりに少なく、嫌いと答えている児童の割合が多かった。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子では、全国・大阪市よりも少なかった。女子については、4割の児童が60分未満となっており、女子の運動量が少ないことがわかった。

●取組の成果と課題／

休み時間や放課後に外遊びが好きな児童が多く、クラス遊びなども盛んに行っている。また、学校行事としても持久走やなわとびなどを全校で取り組み運動量を確保しているが校区の特性上公園が少なく、一旦家に帰ると遊べる場所が少ない。放課後の校庭開放を始め、遊びや運動ができる場所としての学校の役割が大きい。そのことは、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ているかの質問には、男女とも5時間以上が最多となっていることから伺える。

体育の授業は楽しいか、進んで学習に参加しているかの質問では、女子の肯定的な意見の割合が少ない。体育の授業で、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあると答えている児童が多いことから、楽しみながら運動に取り組ませたり、児童同士の学びあいを多く取り入れるなど、体育科での授業改善にも取り組む必要がある。それと合わせて、普段から運動することの必要性や大切さを教えていくことも大切であると考えられる。

学校の特徴



対面式



給食当番



2年生との学校探検



春の遠足



保幼小交流

# 1年生の1年間



6年生とのプール



休み時間の様子



秋の遠足



授業の様子



運動会